

研究室紹介

福井県農業試験場 次世代技術研究部 生産環境研究グループ

福井県農業試験場は1900年に福井県農会農事試験場として発足し、1965年に現在の福井市寮町に移転し、現在に至ります。本場は、福井市の東部に位置し、近くに北陸自動車道が通り、福井ICと福井北ICのどちらからも約3kmのところにあります。

現在の組織体制は、試験研究の企画や農業経営に関する研究、普及指導員の指導や育成を行う企画・指導部、水稲新品種の育成や、作物に関する技術研究、園芸品目の新品種開発を行っている品種開発研究部、そしてICT技術やリモートセンシング技術を利用したスマート農業技術の開発、有機農業に関する研究、病虫害防除技術の研究を行っている次世代技術研究部、および病虫害防除室となっています。また附置機関として、大規模園芸施設や露地野菜、果樹、花きの技術開発を行っている園芸研究センターが県南西部の美浜町にあります。

病虫害に関する研究は、生産環境研究グループで行っており、現在4名の研究職員が配属されており、全員が病虫害防除室との兼務となっています。近年、長年病虫害の試験研究に取り組んできた研究者が相次いで定年退職され、技術継承や人材育成が課題となっております。

環境に優しい農業生産を目的に農薬の使用を減らした病虫害防除技術の開発が試験研究の大きな柱となってお



農業試験場全景



キャベツ根こぶ病

り、近年や、現在進行中の主な研究課題について簡単に紹介します。

「水稲病虫害対策」

斑点米カメムシ類の対策として、雑草管理によって、本田に侵入する前にカメムシ類の密度を低下させるために、稲の出穂前に畦畔の雑草を刈り取り、イネ科雑草の穂を付けさせない管理が重要です。積雪前の雑草管理により、5月下旬ころまで雑草の発生を抑制し、隣接水田での斑点米の発生を抑えることができないかを調査しました。また、新しい育苗箱施薬剤の斑点米カメムシ類に対する防除効果を確認したり、初期害虫に対し、4年に1回程度の箱施薬防除でも被害水準を超えないことがわかりました。

「野菜の病虫害対策」

本県では、水田園芸において、ネギやキャベツ、ブロッコリーが推進されており、園芸品目の病虫害に対する試験研究も増えています。アブラナ科野菜の根こぶ病に対して、耕種的防除の研究や、ネギの病虫害、特に夏季期間の病虫害に対する減農薬体系の研究に取り組んでいます。

「みどりの食料システム戦略」が策定されたことで、今後ますます、農家の現場で役に立ち、現場のニーズに合った、持続的生産体系のための試験研究を目指していきます。

(生産環境グループリーダー主任研究員 富田浩治)